

# 東京バッハ合唱団 月報

[第766号] 2026年4月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101  
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604  
Mail: office@bachchor-tokyo.jp Site: http://bachchor-tokyo.jp



BACH-CHOR TOKYO

Monthly Newsletter No.766

April 2026

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo Japan

## 5月、6月 定期演奏会へのご案内

### バッハ・カンタータ、多様で豊かな饗宴

今度の定期演奏会は、前回（第123回、主宰者・大村恵美子の最終公演）から、ちょうど一年目、同じ季節の開催となります。

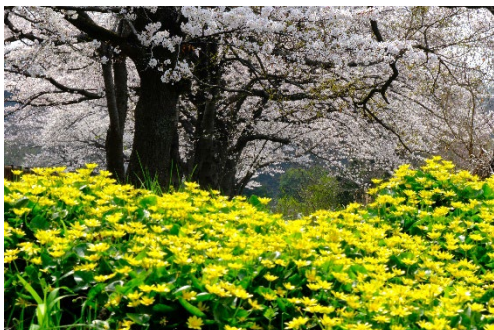
今回は、新任の正指揮者・山本悠尋（ゆきひろ）氏の初舞台でもあり、ご本人・団員・スタッフ一同、好演奏をお届けすべく、着々と準備をすすめております。ご周辺の方々をお誘いあわせの上、ぜひとも、ご予約いただけますよう、お願い申し上げます。

昨年の秋以降、月報の紙面をお借りして、上演曲のご紹介をしてみました（BWV20；25年9月号、BWV10；10月号、BWV196；12月号）、急遽、演目に加えたソプラノ独唱カンタータ（BWV51）の冒頭アリアも含め、プログラム全体を、なるべく重複を避けつつ、ごく簡潔にまとめてご案内させていただきます。

バッハ20歳代前半の初々しい初期カンタータから、バッハの当ジャンル全盛期の2曲、そして技巧の際立つソプラノ用ソロ作品に至るまで、バッハ・カンタータの諸相をこころゆくまでお楽しみいただけるプログラムとなりました。

#### (1) BWV 20、「コラールカンタータ」への挑戦

カンタータ第20番《雷の言葉 おお なんじ永遠よ》O Ewigkeit, du Donnerwort は、バッハの200曲ほどの教会カンタータ作品のなかでも特別な位置づけをもちます。ライプツィヒ・トーマスカントル就任2年目のバッハが、民衆に愛唱される讃美歌（コラール）を中心にすえた新次元の「コラールカンタータ」連作を構想し、その第1作として当地（ライプツィヒ）教会暦年度冒頭の日曜日（三位一体節後第1主日、1724年6月）に、華々しくお披露目したのがこの曲です。開幕のフランス風序曲に始まり、バッハ自身のただならぬ意欲



■桜とリュウキンカ（さいたま市貝沼桜回廊）、撮影・千葉光雄（団員）、2026/03/30

#### 第124回定期演奏会

— J. S. バッハ日本語演奏・大村恵美子訳詞 —

- カンタータ第20番《雷の言葉 おお なんじ永遠よ》
- カンタータ第196番《主は覚えたもう われらを》
- カンタータ第51番より、アリア〈全地よ 歓呼せよ み神に〉
- カンタータ第10番《わが魂 主をあがめ》

—2回公演、同内容—

◇荻窪公演

[日時] 2026年5月30日（土）14:00 開演  
[会場] 日本キリスト教団 荻窪教会（定員50名）

◇三崎町公演

[日時] 2026年6月6日（土）14:00 開演  
[会場] 日本キリスト教団 三崎町教会（定員150名）

—演奏者（両会場とも）—

- ・指揮：山本悠尋（やまもと・ゆきひろ）
- ・ソプラノ：藤原優花 ・アルト：中島麻紀子
- ・テノール：野中裕太 ・バス：加野喬大<sup>(\*)</sup>
- （\* バス独唱者は、上記に変更になりました）
- ・管弦楽：A R S（コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン）
- ・オルガン：田尻明葉 ・合唱：東京バッハ合唱団

—入場無料—

【申し込み】メールでのご予約にかぎり、先着順に登録させていただきます。お名前と、日付と会場、人数をご指定ください。  
窓口：office@bachchor-tokyo.jp（合唱団事務局）

が各所に見られます。

バッハが選んだ基本のコラールは、「雷の言葉 おおなんじ永遠よ」（曲題名と同じ、ヨハン・リスト 1642年作）。なぜ「永遠」（とこしえ）が「雷（いかづち）の言葉」なのかというと、人間は罪の苦悩から永遠に逃れることができない、という剣のように〈心を抉る〉断定が語られようとしているからです。先述の紹介記事では、貧しいラザロを家に招き入れなかった金持ちが、死後の地獄で「永遠」の責め苦を受けるという、指定箇所（ルカ 16、19-31）に因んだ中世写本を掲げ

#### 月報 2026年4月号 CONTENTS

- ・多様で豊かな饗宴—定期演奏会へのご案内……p. 1-2
- ・日本語版楽譜、ついに90曲になりました！……p. 3
- ・連載：退屈するのはいそがしい [62]（大野博人）p. 4

ておきました。ご参照ください。

それにしても、重く苦しいカンタータです。2 部構成全 11 曲のすべての歌詞が、このコラールからとられています。冒頭合唱と中間第 7 曲と終結第 11 曲のコラールは、それぞれ第 1 節、第 8 節、第 12 節のものとの歌詞そのもの。その他のレチタティーヴォやアリアは、その間に置かれた詩節から改作されたものです（対訳歌詞へは、当ページ脚部参照。他作品も同様）。

今の世界の現実——ウクライナとガザに加え、ペルシャ湾にまで及んだ地獄——を見せつけられているような、救いのなさをお感じになられるかも知れません。当コラールの詩人リストが生きたのも、長く悲惨な三十年戦争（1618-1648）の最中でした。

さて、このカンタータ、どんな終結を迎えるか、お楽しみに。

## (2) BWV 196、「初期カンタータ」、若きバッハの爆発

がらりと変わって、第 196 番《主は覚えたもう われらを》Der Herr denket an uns は、若いバッハの希望にあふれた、心おどる作品です。前年にバッハ本人と初めの妻、マリア・バルバラとの結婚式を司式してくれた牧師のシュタウバー師と、バルバラのおぼとの結婚式を言祝ぐための曲とされています。

全 5 楽曲の小さなカンタータですが、それぞれに祝福を意図する明確な技量がちりばめられ、後の大家の片鱗がうかがわれます。

すでにご紹介したとおり、合唱中に登場する〈めでたもう アロンを〉のアロンは、出エジプトのモーセの兄で、後の祭祀職の祖とされる人物。つまりプロテスタント教会という牧師であり、本日の主役たる愛すべき牧師殿への呼びかけです。ごく親しい身内の集まりだからこそ実現した、壮大な遊びごころ、とも思われます。

## (3) BWV 51-1、「独唱カンタータ」の魅力

急遽ここに追加された経緯とともに、このカンタータ《全地よ 歓呼せよ み神に》Jauchzet Gott in allen Landen から、今回歌われる冒頭アリア（曲名と同じ）の聴き所をご紹介します。

まず経緯。われわれの活動理念にご賛同いただき、ここ 7、8 年にわたって、協演をつづけてくださっている演奏団体 ARS の代表・椿高明氏から、彼らの主催公演に、バッハのソロカンタータを取りあげたいので、大村恵美子訳詞があれば、使わせてほしい、というお申し入れをいただきました。もちろん、快諾させていただきました。かつ、われわれの出版計画にも、急遽加えることとしました。

先月号の当紙面に、椿氏のコメントとともに開催のお知らせが載っています（\*）。

[\*] [http://www.bachchor-tokyo.jp/monthly\\_newsletter/index.htm](http://www.bachchor-tokyo.jp/monthly_newsletter/index.htm)]

■ハナニラとキク科の花一輪（荻窪教会の入り口前庭）、撮影・千葉光雄（同）  
2020/03/28



[BWV 51, 199 の教会カンタータ 2 曲。ARS 公演では、他に、イタリア語原詞の世俗カンタータ BWV 209 が上演される。ソプラノ独唱・藤原優花。4 月 12 日（日）午後 2 時開演、鎌倉芸術館小ホール（JR 大船駅下車）、入場無料]。

というわけで、われわれのこの度の公演においても、独唱カンタータの一端に触れていただくということで、第 51 番の冒頭アリアを、同じ藤原優花さんのソプラノ独唱でご披露いただくこととなったものです。

全地に満てる神の威光への讃美と、恵みの豊かさへの感謝とを、完成された技巧の粋をつくして歌い上げた、バッハ絶頂期の声楽作品です。華やかなトランペットとの掛け合いは、ぜひご堪能いただきたいもの。

## (4) BWV 10、カンタータ作品の完成形

この日のステージの最後を飾るのは、カンタータ第 10 番《わが魂 主をあがめ》Meine Seele erhebt den Herren です。当プログラムの劈頭の曲（1）BWV 20 の初演から、わずか 3 週後に初演された作品で、その BWV 20 をもって開始されたコラールカンタータ連作の第 5 作目に当たるもの。

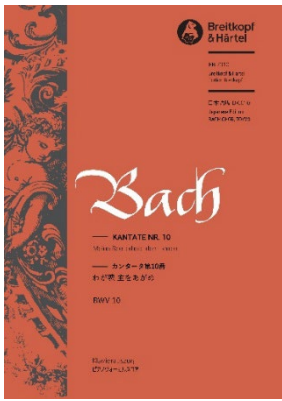
マリアのエリザベト訪問の祝日用の歌詞（ルカ 1；47-55）に作曲されたもので、昨年（2019）の第 124 回定演で上演した《マイニフィカト ニ長調》BWV 243 と同じテキストです。主題コラールは、古来、ドイツの教会において独自の旋律で歌われていたグレゴリア聖歌（ラテン語）に、改革者マルティーン・ルターが、自らのドイツ語訳詞を付して用いたもの、とされています。

この曲の初演に立ち合ったライブツィヒ市民が、冒頭合唱の、オーボエとトランペット序奏に導かれて歌い出すソプラノ声部のコラール主旋律を聞いた瞬間の感動は、如何ばかりだったのでしょうか。印象的な旋律で〈わが魂 主をあがめ〉と、彼らの母語を聞き取ったのです。以下、馴染みの「マリアの讃歌」の内容（力ある神への讃美、権力の座にある者への戒め、低き者・飢えた者への労り、子孫繁栄の約束など）が、アリアやレチタティーヴォによって、多彩に展開されます。

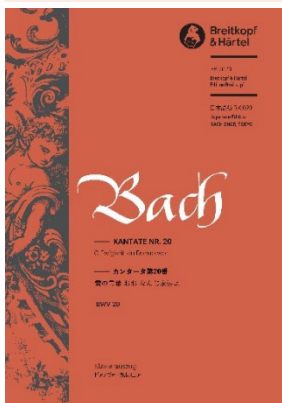
終結には、主題旋律による 4 声体コラールの形をとって、三位一体の頌栄が語られます。単純であるがゆえに、その力強さは格別です。

個人的には、バッハ・カンタータの完成形の一つと感じているのですが、如何でしょうか？

# 日本語版楽譜、既刊 90 曲になりました



① BWV 10 (¥2,000)



② BWV 20 (¥2,300)

バッハ・カンタータの日本語版ボーカルスコア(大村恵美子訳詞)の発行を、2000 年から続けています。

以下の件は、ご承知の方も多数いらっしゃるはずですが、新しい読者が増えましたので、改めて取り上げさせていただきます。

## ◇各自で歌詞を書き写し

合唱団創立(1962年)から

30 数年の間、団員たちは、ドイツから取り寄せた楽譜に、主宰者・大村恵美子訳の手書き歌詞の付された譜面を見ながら、各自で歌詞を書き写しては練習に参加し、本番に臨んでいたものです。

## ◇「バッハ・カンタータ 50 曲選」

カンタータの訳詞上演が百曲ほどに及んだころ、訳業の散逸を防ぐために、訳詞付きの楽譜を出版したらどうか、

という話が沸きあがりました。日本語演奏の普及にも資するに違いない、ということで、上演を終えたレパートリーの中から代表作 50 曲を選んで「バッハ・カンタータ 50 曲選」と銘打ち、バッハ歿後 250 年の記念年にあたる 2000 年から発行を始めました。再演・三演と重ねた人気曲・有名曲も多く、本番のつど声楽家の方々の意見も聞いて、何度も手を入れた稿などが原稿となり、年に 10 曲のペースで刊行をつづけ、2004 に完結しました。

## ◇底本版元のブライトコプフ社から、驚きの提言

その後も、定期演奏会の選曲に合わせて新規の出版を継続し、既刊楽譜が増えていきましたが、数年前、このシリーズの発刊以来、底本として使わせていただいていたブライトコプフ&ヘルテル社の著作権担当部門から、つぎのような驚きの提言が寄せられたのです。

「当社は、再版の際に、新しい表紙デザインに統一しています。そこで、貴出版局においても、今後の発刊あるいは再版のときには、このデザインを使用いただき、将来的に全てのカンタータが、当社版と日本語版とで同じレイアウトになるようにして頂ければ幸いです」(2023/03/11)

その統一の表紙意匠が、このページに掲げたもので、ブライトコプフ社が創業 300 年(2019 年)に際して採用を始めたものでした。訳詞の水準と編集造本の質を評価した結果ということだそうで、光栄きわまりない

## 直近の刊行ご案内

◇第 123 回定期演奏会の曲目——既刊、2024 年 5 月発行  
BWV 23 《主なる神 ダビデの子》

BWV 34 《おお永遠の火よ おお愛の源よ》

◇第 124 回定期演奏会(5/30、6/6)の曲目——既刊、2025 年 9 月発行

BWV 10 《わが魂 主をあがめ》①

BWV 20 《雷の言葉 おお なんじ永遠よ》②

◇ARS 公演(4/12 開催)の曲目——2026 年 4 月、発刊

BWV 51 《全地よ 歓呼せよ み神に》③

BWV 199 《わが心 乱れさわぐ》④

◇第 125 回定期演奏会(2027 予定)の曲目、近刊

BWV 3 《しげき悩み いま われを襲いきて》

BWV 5 《いずこに われ逃れゆかん》

お勧めだったのです。喜んで同意し、さっそく一昨年の定期演奏会(第 123 回)の上演曲中の 2 曲のカンタータの日本語版楽譜から、日独の統一デザインでの出版となったものです。日本国中と言わず、世界中で使っていただければ、と願っています。

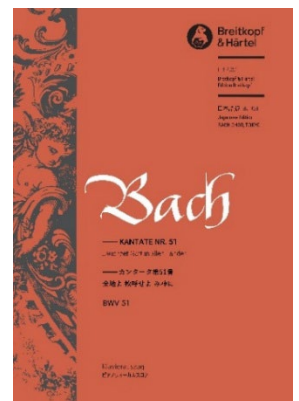
## ◇日本語版楽譜の既刊、ついに 90 曲になりました

先述(前頁)のとおり、いつもの協演者、ARS 主催のソロカンタータ公演(4/12、鎌倉芸術館)の演目のうち 2 曲(BWV 51、BWV 199)を、急遽、発行しました。これを最新刊として、教会カンタータの既刊は 88 曲に、世俗カンタータの既刊 2 曲を加えて合計 90 曲が揃いました。

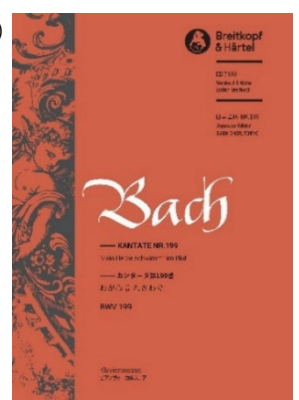
さらに、次回公演(第 125 回定演、2027 年前半予定)の上演予定曲(BWV 3 と BWV 5)も、すでに版下は完成しています。今回公演の終了後、ただちに開始される練習に備えて、刊行を待つばかりです。

## ◇事務局でも取り扱います

いずれも、銀座・山野楽器、本郷・アカデミアミュージック、京都・パナムジカなどで販売しますが、直接、事務局でもお扱いできます。



③ BWV 51 (¥2,000)



④ BWV 199 (¥1,800)

<訃報> 山下廣之様、2026 年 2 月 22 日ご逝去。淑子夫人ともども、当団の最初期からの団員でした。ご連絡: ご長女・朝倉京子(kyoko8674@gmail.com)様。

<連載随想>

退屈するのはいそがしい [62]

## ある映画館



安曇野閑人 大野 博人

常連になっている映画館がある。

東座（あずまざ）という。長野県の塩尻市にある。安曇野の拙宅からは車で一時間弱。

シネコンプレックス全盛時代に珍しいミニシアターだ。創業から100年あまり。たたずまいや看板には昭和の雰囲気色が濃く残っている。今はなくなってしまった東京の岩波ホールが取り上げていたような質の高い作品が、毎日上映されている。

先日は「役者になったスパイ」というスイス映画の新作を楽しんだ。1989年のスイスが舞台。反体制的で、東側の共産主義国とつながりが疑われる劇団に、若い警察官が潜入捜査のためエキストラとして入団する。まもなく台詞のある役を割り振られ、女優など劇団員たちと親しくなるにつれ、しだいに本来の使命に疑問を抱くようになる。ちょうどベルリンの壁が開放される前後の物語。

取材で冷戦崩壊の現場を走り回っていた私には、冷戦的思考が動揺し始めた当時の空気もうまく描いていると感じられた。

東座では、優れた新作のほか、秀逸なドキュメンタリーや往年の名作なども取り上げている。上映作品を選ぶのは、映画についてのコラムも執筆する経営者の女性。その眼力は確か。だから固定ファンも少なくない。県外からも来るという。

実は、この映画館にはスクリーンが二つある。上記のような作品を紹介しているのは1号館。隣接する2号館で上映しているのは、成人映画、つまりポルノである。両者が共存している不思議な場所だ。チケット販売の窓口も別になっている。



■東座の1号館と2号館で上映されている作品の揭示板  
(写真提供と説明…筆者)

成人映画を始めたのは先代の父親。収益を確保するために乗り出したという。東京から戻ってきた彼女は、館を引き継ぐなら名画座にしたいと思っていたそう。しかし、経営を心配した父親の助言で、成人映画の上映も続けることにしたという。

それにしても、あやしげな動画や映像がネット上にいくらかでも飛び交う時代になっている。2号館にまだ客は入るのだろうか。

「やっぱりスクリーンで観たい、という高齢のお客さんがまだいらっしゃる」という。このジャンルにも昔ながらのファンがいて、やはり「県外からやってくる人もいます」。

興業収益より、映画を心から愛するファンの期待に応えることを優先してがんばっている映画館。それは東京から離れた地方にもあるのだ。

首都圏から友人たちが遊びに来ると、たいてい「信州はほんとうにいいところだねえ」と感心してくれる。あわただしい都会とちがいの、のどかな風景や落ち着いた町のたたずまいにほっとするようだ。

「だったら君も地方に移住しては」と提案すると、こう言われることがよくある。

「田舎暮らしは素敵だと思うけれど、質の高い文化や芸術に触れようと思ったら、やっぱり東京で暮らした方が……」

そうかなあ？

たしかに東京には素晴らしい展覧会も質の高いコンサートも毎日たくさんある。ミニシアターだってもっと多いだろう。しかし、だからといって地方が文化不毛の地だということにはならない。東座がいい例だろう。

首都圏に住んでいたころ、私はあまり音楽会や美術展に足を運ばなかった。都心に出かけるにも、帰宅するにも、満員の電車やバスを乗り継がなければならない。美しいものに触れた余韻も吹っ飛んでしまう。ここでは、東京ほどの頻度ではないにしても、それなりに機会はある。行き帰りが面倒でもない。移住後の方が、芸術や文化を堪能している。

さらに言えば、芸術や文化の創造という点で先頭を走るのが大都会だというのも偏見ではないだろうか。

バッハが活躍したライプツヒは当時、人口数万の町だった。シェークスピアが登場したころのロンドンだって十数万人程度。モーツァルトが生まれ育ったころのザルツブルクは2万人もいなかったという。

4千万人近い人が暮らし、文化的、芸術的な刺激があふれているはずの首都圏。バッハ級、シェークスピア級の芸術家をいったいどれだけ輩出できているだろうか。

大都会は、芸術にとって大量消費地ではあるのは確かだけれど。

(団友・後援会員、元朝日新聞記者)